

活動名：第1回さいとう医院杯フットサル大会（旧小野町フットサル大会）

U-10の部

日程：平成26年2月8（土）～9（日）

会場：小野町営体育館

参加：T5・E4クラス（3、4年生）7名 ※リフティング40回以上記録認定選手

帯同：熊坂・（設楽）コーチ

結果：12チーム中 優勝

対戦相手：1日目 ○富田西 ○行健 ○小野B

1位通過 1位リーグ進出

2日目 ○富田東 ○小野A ○小野C

感想：設楽コーチ

毎年ご招待いただいている小野町フットサル大会ですが、今年から協賛企業により標題の大会名に変更され、今年もお誘いをいただき、U-10の部、U-12の部の2チームで参加させていただきました。

小野FCの保護者会が主催するこの大会には、小野FCさんとの深い交流があるチームが招待され、各チームの子どもたちの健やかな成長を確認しあうような機会となっております。小野FCの木内監督は、自分のチームのみならず、他のチームの子どもたちをしっかりと観察され、励みになるあたたかいお言葉を私たちに毎回いただいております。

小野町の夏のNACカップと冬のフットサル大会にご招待をいただける経緯は、私と小松コーチが、指導者の資格をJヴィレッジで受けた時に木内監督と出会ったことがきっかけでした。その後、アーレを立ち上げ、そのクラブ理念に共感していただき、大会に招待していただけるようになりました。アーレはチームとしての育成ではなく、子どもたちのレベルに合わせた個々の指導を重視しているため、おもしろい個性的なサッカーをする子どもたちがいるとご好意を持っていただいております。

さて、今回、U-10の部には渡辺コーチが監督コーチとして参加する予定でしたが、家族（みさき君）のインフルエンザにより、他の方へ移してしまうかもといったことを心配し、私が代わりに帯同することになりました。

U-10の選手たちは、リフティング記録認定証40回以上のT5、E4クラスの選抜選手です。リフティング記録による選抜は、お陰さまで各クラスの数が増えてきたこともあり、大会に参加するにあたり、しっかりと練習している選手たちの舞台を作ってあげることが必要と考えたためです。

そのテスト的な機会として今回実行しましたが、そのリフティング記録も40回から4000回と幅広い記録であり、個々の技術はまとまってはいませんでしたが、選抜された選手たちは日々リフティングをがんばっている8名でした。

大会が近付くと、選抜されたT5クラスの「みさき君」がインフルエンザになってしまい

7名となり、また当日、集合するとT5クラスの「こうた君」がなわとびで捻挫をしたことからあまりプレーができないと、実質6名のような状況でした。

リフティング記録に拘っていることは、その記録と比例してサッカーの個人技も上達してくるということです。練習しないと記録が伸びないリフティングは、当然、日ごろにボールに触る回数が増え、足下のコントロールが上手になり、ドリブルやトラップ、キックも上達してきます。しかし、フィジカル（筋力や体力）面は上がりませんが、まず、第一に個人技として必要な技術を習得できます。そのようなことから毎月リフティングテストを実施しています。当然、日々ボールに触ってがんばっている子どもは回数が月々増加し認定されます。

今回の6試合においても、参加した選手たちは、相手からボールを奪うと、ドリブルを仕掛け、無理な場合はパスを通し、シュートに挑めば正確に放ち、確実に得点を奪い、その日々の努力を勝ちたいという強い気持ちで、自分が今できる技術を最大限に発揮してくれました。

アールの練習は、チームとして試合中の決められた役割などの練習は一切しないので、ぶつけ本番で出来上がったチームでも、個々のスキルがあれば普段、自分たちができるプレーを繰り返すことで、無難に戦うことがジュニア年代では可能です。

もし、私たちのクラブが上手な子どもたちだけを選抜し、チームとして組織だってポジションを決め、チームとして勝つことに拘るのであればそれは可能なことです。

しかし、そのチームが強いなどといったことは、二の次であり、サッカーが大好きでアールファミリーになってくれた子どもたちがみんな平等に練習し、同じ年代の仲間とともに活動し、それぞれの目標に向かって練習する環境が大事であると思っています。

日々の活動はみんな仲良く楽しく、中学校でもサッカーを続けてくれる子どもたちを創造したい。しっかりとした個人技術を身につけて中学校に行き、戦術を覚え、高校年代で最高のパフォーマンスができればと考えています。

今回のような選抜的な参加は、一つのリフティングをがんばっている選手たちのご褒美のような機会でしたが、技術の高い選手たちで戦えば、今回のように圧倒的な強さで「優勝」することができます。

しかし、大会で優勝という結果はとても素晴らしいことですが、参加した選手たちの勝ちたい気持ち、相手からボールを奪う気持ち、果敢に攻め込む積極的なプレーは、見ている人たちからも「凄い」の声が聞こえるほどでした。

参加できた選手たちには最高の自信になり、今後もがんばってくれることでしょう。

さて、今回の大会結果は参加した選手たちの『結果』です。

昔から私が心配していることがあります。それは、例にあげると、『トレセン制度』です。

各チームの監督から推薦されて、各地区のトレセンに選出された選手たちは、トレセンに選ばれたということで、「自分は上手い」と高くプライドを持ってしまいます。

自分のチームに戻った時には、下手な仲間と活動することに不満をいだき、日々のチーム練習でも態度が悪くなってしまうことがあるようです。これは、私が幼少の時からずっとある話しです。

子どもの気持ちなので素直な気持ちなのかもしれませんが、指導者や保護者が仲間のことを思う気持ちをしっかりと指導してあげれば良いのですが、なかなか難しいようです。

上手い選手たちのハイレベルな経験を活かし、あまり上手くできない仲間をサポートしてあげ、気遣うような選手になってくれれば良いのですが・・・。

これは、今回の出場した選手たちも心配することです。

大会中に、祝勝会の話が出ましたが「優勝したら自分たちだけ参加して祝いたい」などと言う声も聞こえました。

日々の練習に戻った時に、この二日間、練習会に励んでいた同じ年代の仲間とまた、同じ気持ちで切磋琢磨して楽しく活動し、それぞれに自分の上達を目指してがんばってほしいと願っています。そして、そのような気持ちを抱いた場合には厳しく指導もしていきたいと思っています。サッカーが上手いだけでは駄目ですからね。

6年生チームも最後の大会だったため、私はU-10の帯同でなかなか見ることができませんでしたが、一人一人が最後にどんなプレーをしてくれるのかがとても気になりました。チームとしての結果はなかなか厳しいものでしたが、上記で述べたように個々にどのような試合ができたのかといったことが重要なので、終わった後の6年生たちを見て、やりきったような顔をしていたのでちょっと安心しました。U-10の後輩たちの応援を積極的にしてくれていたことも先輩として頼もしく見えました。

記録的な豪雪の二日間、子どもたちの応援にきていただきました保護者の方々、有り難うございました。もし、雪が酷く突然の不参加連絡などを受けた場合は、会場に来られた選手たちだけで戦うしかなくベストな状態はできなかったと考えると、必死に運転して会場に全員お越しいただいたことは大変嬉しく感謝いたします。

最後に、小野FCの保護者の方々、またスタッフの方々、会場の雪かきや大会中の本部運営、各会場の得点やタイム係など総動員で関わっていただき、沢山の子どもたちのために有り難うございました。

「優勝すると来年はご招待いただけない」なんて言われていますが、是非来年もよろしくお願い致します（笑）。

そして、沢山のチームと交流させていただき、対戦相手の各チームの方々にも感謝いたします。有り難うございました。

